

平成 30 年度 地域ケアプラザ事業報告書

■ 施設名

潮田地域ケアプラザ

■ 事業報告

1 全事業共通

地域の現状と課題について

かつては京浜工業地帯の職員のまちとして賑わっていましたが、工場が撤退しその跡地にマンションなどの大規模住宅も増えています。平地で交通の便も良い環境の地域です。地方出身者や外国籍をもつ方も多く、高齢化率も他の地域よりやや高く、5地区の平均が 24.8%となっています（平成 30 年 3 月末現在）。

単身世帯や生活保護受給世帯も多い地区で、要援護世帯の増加に伴い、社会的孤立などの課題が浮上しています。また、状況が深刻になってからの相談も多く、自分から S O S を発信できずに困っている人たちが孤立せずに、安心して生活が続けられるように地域への取組が大切と感じています。

(1)相談（高齢者・子ども・障害者分野等の情報提供）

1 地域ケアプラザとして、高齢者・子育て・障害分野のあらゆる相談に応じられるように、5職種が日常的な情報共有に加え定期的に5職種会議を行い、所内連携を進めました。さらに、多職種連携会議（5職種及び区役所や鶴見区社会福祉協議会等による地域支援会議）を毎月定例開催し、地域支援に関する関係機関の連携を強化しました。また、配食等ボランティアからの情報を受け包括が環境調整するなど、家族・支援者を支えられるよう所内連携し、対応しました。

2 総合相談対応や地域事業への参加だけではなく、協議体や地域ケア会議、地区別福祉保健計画の推進事業などの機会を捉え、地域状況を把握出来る場として関係機関と協力し企画開催しました。得られた情報から、地域特性や課題を整理し、地域へフィードバックし、次の取組やネットワーク形成に活かしています。

3 地域住民が主催するサロン、茶話会等において、5職種で連携して出前福祉講座を開催し、福祉保健に関する情報提供を行いました。

- ・潮田中央地区 4回
- ・潮田東部地区 4回
- ・潮見橋地区 7回
- ・潮田西部地区 10回
- ・小野町地区 4回

また、昨年度に引き続き民生委員・児童委員向け勉強会を2回開催して、情報伝達の機会をつくりました

(2) 各事業の連携

- 1 各職種とも、積極的に地域との関係を築きながら、埋もれたニーズを把握しています。その中で、日常的に地域の課題として把握・共有し、個別支援から地域支援まで幅広く対応出来るように、常に意識して取り組みました。個別地域ケア会議も個別の内容だけで無く地域の課題として展開できるよう意識して組み立て実施することで段階的な展開ができています。
- 2 5職種会議を毎月定例で行い、地域支援の方向性を確認しながら協力して事業を推進しました。(再掲)
- 3 所内5部門にて定期的にミーティングを実施し、情報共有することに加え、それぞれの専門性を活かして協力して事業を実施しました。また、所内他部門向け勉強会を実施しました。さらに、年度途中から職員の入れ替わりもあったことから、包括では、毎朝ミニミーティングを実施し、人材育成を意識して地域ケアプラザとして一貫した対応が出来るよう心掛けました。

(3) 職員体制・育成、公正・中立性の確保

- 1 法人の人材育成計画及び「求められる職員像」に基づき、職員一人ひとりの課題や目標に応じた人材育成に取り組みました。日常業務におけるOJTや各専門性を活かした所内研修を実施し部門を超えた人材育成を行いました。また、外部の研修にも積極的に参加し、伝達研修を行うことで職員全体の資質向上に努めました。
- 2 法人として新人育成制度や主任制度を設け、職場内のメンタルケアも含めたチームでの職員育成を行いました。職員の入れ替わりもあり、特に包括3職種では朝ミニミーティングを実施し質問し易い環境作りを行いました。
- 3 法人内で集計分析した事故報告を職員間で共有し、施設での事故防止に向けた検討・対応を行いました。また、ヒヤリハット事例の抽出・共有を行い、事故や事故までには至らない潜在リスクの情報についても職員全体で共有・分析し、事故防止に活かしました。通所の送迎車のバック時の誘導をサブコーディネーターが行う等部門を超えて事故防止の対応を行いました。
- 4 各職種会議を毎月定例にて実施しました。各職種の課題等については、職員会議にて出し合い所内の課題として取り組みました。

(4) 地域福祉保健のネットワーク構築

- 1 各定例会や地域事業に積極的に参加し顔の見える関係づくりを行いました。5職種にて地域事業の依頼リストや年間定期事業への参加予定を一覧にし、地域住民からの信頼関係を築くことを意識して活動に参加しました。また、個別の地域ケア会議から包括レベルの地域ケア会議・協議体の開催等に展開しました。特に、今年度12月に開催した個別地域ケア会議では、不動産屋・銭湯・警察が地域住民支援者と一緒に高齢者の見守りについて検討し、一つの自治会としてだけでなく商店街も巻き込んだ地域課題への取組に発展するための意思確認を行いました。
- 2 各種連絡会に参加するだけでなく、関係機関と共に事業を実施し、関係を深め、地域包括ケアシステムのネットワークを強めています。認知症関連の講座においては、エリア内の社会福祉法人やボランティア団体と共に内容を企画検討し、認知症キャラバンメイト講座・認知症サポーターフォローアップ講座を実施しました。特に認知症サポーターフォローアップ講座は会場を地域の高齢者施設にて開催し、近隣機関との関係強化を図っています。また、事業展開については、区役所や区社協と共に検討・協働し実施し

ました。

- 3 潮田海側ネットワークの開催にあたり、今年度は「地域の居場所による見守り活動」をテーマに地区社協会長・事務局長の他、地域活動者にも声かけし、出席者の拡大を図りました。それぞれ、前述のテーマについて地域活動者から事例発表することで互いの活動の情報を交換し、見守りの意識について共有しました。
- 4 施設利用の登録団体やボランティアとの交流会を実施しました。今年度はこれから活動を検討しているボランティア団体によるカレーを一緒に食べながら活動紹介を行い、団体同士にて協力依頼を行う様子もみられ、ボランティア団体と会場利用団体の交流を図ることが出来ました。また、ボランティア団体のミーティングに参加するだけでなく、「地域ケアプラザについて」等講習会を実施しました。

(5) 区行政との協働

- 1 地域ケアプラザの相談者や利用者について、区役所高齢障害担当と日常的に情報を共有して協働で支援にあたるほか、定例の区・包括会議を活用し定期的に課題が複雑化しているケースなどの情報共有を図り、支援方針の検討を行って効果的な支援を実施しました。個別課題や地域課題を共有し、カンファレンスや地域ケア会議等について協議しながら開催しました。
- 2 「第3期 鶴見区地域福祉保健計画（以下、鶴見・あいねっと）」における地区別計画推進に向けて、区役所、鶴見区社会福祉協議会（以下、区社協）、公立保育園等と連携し、5 連合自治会のそれぞれの状況や課題を踏まえ取組を実施しました。特に小野町自治連合への取組は区役所・区社協と共に検討し住民自らが自分達の活動を認識し、他自治会の取組にも目も向けるきっかけとなりました。また、その中の活動から海側ネットワークにて事例発表を行っていただきました。
- 3 介護予防や健康づくりを目的とした活動の場や機会づくりを区役所と協働で進めました。継続的な介護予防事業にとどまらず、雨のため中止となった潮田中央地区のうしおだ健康フェスタは企業を巻き込んで健康や多世代交流を目的とした取組となり、今後の発展も期待されます。

2 地域活動交流事業

(1) 自主企画事業

- 1 高齢者のみならず子どもや障害者、外国籍の方々についても情報収集、課題分析を行い、地域ニーズの抽出を地域ケアプラザ全体、特に5職種間で役割分担をして取り組みました。また、各地区の事業等に出席する中で把握した地域性や地域ニーズに合わせ、さまざまな事業（出前福祉講座・住民支え合いマップ・介護予防事業等）を展開しました。
- 2 「鶴見・あいねっと」地区別計画の推進や地域の要望に沿った取り組みを地域ケアプラザ、区役所や区社協等の関係機関、地域住民とともに進めました。
 - ・潮田中央地区 検討委員会（1回）
検討委員会の他、新規事業として「うしおだ健康フェスタ※」を企画。準備会を2回実施。※雨天中止
 - ・潮田東部地区
地区フォーラム(2回)
 - ・潮見橋地区
あいねっと実行委員会(2回)
 - ・潮田西部地区

あいねっと推進会議(1回)

・小野町地区

地区懇談会(1回)

- 3 地域ケアプラザ自主事業から始まった「フレンド会」、「ふれあいサロンPort」、「配食活動」等の共催・後方支援事業について、活動ボランティアとの打ち合わせを必要に応じて実施し、課題の把握や団体と地域ケアプラザとの役割分担等を行いました。また、広報紙に各活動紹介を掲載し、広く地域に周知したことで、参加希望の問い合わせが入り参加につながる効果がありました。
- 4 子育て中の親子の居場所づくりや親同士(特に父親同士)の交流を目的に、「父親育児講座」を実施しました。父親が身体を使って子どもと一緒に楽しめる遊びのレクチャーや親同士が交流する内容を盛り込み、地域の子育て世代が情報交換できる機会を提供しました。
- 5 地域の親子の居場所や子育て団体の活動に参加し、地域の保育園や幼稚園、関係団体との関係づくりに努めました。また、区役所等の関係機関と連携し、潮田エリアの子育てに関する情報提供の場として開催した育児支援イベントの打ち合わせ、準備等に参加しました。
- 6 区社協、区内地域ケアプラザと連携し、障害児余暇支援事業「つるみサマーフレンド」を実施しました。
当地域ケアプラザ担当コースとして、おにぎり作り、音遊び、バルーンアート等、参加者全員で楽しめるプログラムを実施しました。おにぎり作りは、配食ボランティアに協力を依頼しました。
また、上記事業の参加者ニーズに応え、冬季の障害児余暇支援事業「クリスマスパーティー」を区内地域ケアプラザ地域活動・交流コーディネーター連絡会で共催しました。
- 7 潮田交流プラザ3施設(潮田地域ケアプラザ・潮田地区センター・横浜市国際学生会館)のPRと地域住民との交流を目的として、潮田交流プラザ秋まつりを実施しました。
※参加者数：述べ3,100名

(2) 福祉保健活動団体等が活動する場の提供

- 1 新たな福祉保健活動団体が当施設を活動の場として利用していただけるよう、地域のサロンや会合等で地域ケアプラザの貸館について周知しました。その結果、団体登録件数が数件増加する反響があり、稼働率の低い夜間の利用にもつながりました。依然、夜間の稼働率が低い状況は続いているため、引き続き地域のサロンの場や広報紙等を活用した周知を進めていきます。
- 2 当施設を拠点として活動している団体の活動日や活動内容についてカレンダー方式でエントランスに大きく掲示するとともに、来館者が気軽に持ち帰ることができるようA4サイズのチラシを作成し、配架しました。
- 3 利用登録団体や登録ボランティア同士の交流や活動の活性化を目的に3月に交流会を実施し、福祉保健活動団体同士で情報共有ができる場を提供しました。

(3) ボランティアの育成及びコーディネート

- 1 ボランティア募集情報を当地域ケアプラザ広報紙や県社協のホームページ等に掲載し、周知を行いました。それらの広報を経由してボランティア希望者からの問い合わせにつながり、面談を通して希望者の意向に沿った活動を紹介しています。
また、必要に応じて区ボランティアセンターや移動情報サービスセンターにつなぎ、連携を図っています。
- 2 既存のボランティアグループの活動の継続・拡充を目的に、活動の振り返りや今後の方針等を活動者と話し合う機会を設けました。特に、2つのボランティア団体が関わる「配食活動」においては年間2～3回程度定期的な話し合いの場を持ち、活動に対する意識向上及び両団体と当地域ケアプラザの連携強化を図っています。
- 3 各種ボランティア団体等のボランティア募集状況を把握するため、団体関係者と日々情報交換し、ボランティア希望者の意向に合った活動へスムーズにコーディネート出来るよう活動環境を整えています。
- 4 ボランティア活動に参加するきっかけ作りとして、「よこはまシニアボランティアポイント登録研修会」を3月に開催しました。また、既存のボランティア団体や高齢者サロン等の新たな担い手の確保や研修会受講者の意欲を高めるため、当該研修会の参加者を対象としたフォローアップを検討していきます。
- 5 ボランティア同士の交流や情報交換の場としてボランティア交流会を3月に開催しました。(再掲)

(4) 福祉保健活動等に関する情報収集及び情報提供

- 1 自治会町内会や地区社協、地区民児協、老人会、ボランティア団体等の会合や事業に積極的に関わりを持ち、活動状況を収集しました。
収集した情報は、生活支援コーディネーター、地域包括支援センター職員、区社協と協同で作成している地域アセスメントシートやエコマップ等に反映し、地域の実状を把握・分析するとともに、地域住民等とのかかわりや地区別計画の推進、個別の相談支援等に活かしています。
※活動参加状況：132回
- 2 広報紙「うしおダック」や本会ホームページにて、福祉保健活動や事業の周知を行い、最新の情報を提供しています。広報紙は、読みやすい文字の大きさやレイアウトを心がけ、当地域ケアプラザからの情報だけではなく、老人クラブや自治会町内会等の地域活動を掲載し、地域住民が親しみやすい内容となるよう工夫しています。
配布にあたっては、自主事業や地域の会合に出席した際に積極的に配布説明するほか、館内利用者やボランティア団体、関係機関への配布、その他サービス付き高齢者住宅や銭湯等にも配架を依頼し、より多くの住民に情報が届くよう配布範囲を広げています。
- 3 施設内の情報掲示等は施設の設置趣旨を鑑み、公共性・公益性に配慮して行っています。可能な限り利用者の目に入りやすい場所に掲示物のジャンル等も考慮しながら掲示する等工夫しています。
- 4 団体同士の活動状況や情報交換、活動の活性化等を目的として、利用登録団体交流会を3月に開催しました。また、各団体から意見や情報を収集し、団体や地域の課題を抽出・分析し、団体の活動支援や地域支援へ繋げていきます。

3 生活支援体制整備事業

(1) 事業実施体制

- 1 地域住民等への事業周知及び介護予防の視点について啓発を続け、地域住民やその他地域のさまざまな組織・団体とともに、他部門と行う出前福祉講座や地域ケア会議、本事業に係る連携・協議の場等において、高齢者等が住み慣れた地域で長く豊かに暮らしていくための体制づくりを行っています。
- 2 生活支援コーディネーター、地域活動・交流コーディネーター、地域包括支援センター職員のほか、地域ケアプラザの全職員が担当業務と地域支援を結びつけていけるよう、毎月の職員会議の進捗報告や日々の情報交換を通して意識の醸成を図り、地域ケアプラザ全体で事業を推進しています。

(2) 地域アセスメント（ニーズ・資源の把握・分析）

- 1 地域の実情や高齢者等のニーズ把握を目的に、自治会町内会や老人クラブ、地区社協等のさまざまな地域活動に参加し、担い手または活動参加者から地域情報を収集しています。また、把握した情報は地域活動・交流コーディネーター、地域包括支援センター職員等で常に共有し、地域支援計画の作成やその振り返り、地域アセスメントシートの更新等を通して自治会町内会単位の状況・課題分析を進め、地区支援方針に反映しています。
- 2 地域アセスメントによる地域の傾向分析にもとづき、老人クラブが無い自治会の居場所づくり及び住民による見守り活動の発展等について地域関係者と協議し、高齢者等が集まれる場や機会の設定、すでにある見守り活動の拡充等を目指した地域支援を継続しています。

(3) 連携・協議の場

- 1 地域アセスメントの情報や地域ケア会議の開催、住民支え合いマップの作成によって明らかになった地域の共通課題の解決に向けて、住民や関係機関とともに継続的に協議、検討する機会を設けました。協議を重ねたことにより、3つの自治会町内会でそれぞれ見守り活動の発展のための取組や高齢者等を見守るための視点を啓発する取組につながり、関わりを続けています。
・協議体実施回数：11回
- 2 鶴見・あいねっとの推進等を通して地区社協や地区民児協、その他関係団体と協議を重ね、地域の現状把握やこれまで積み重ねてきた活動の振り返り等を行いました。今後の方針を確立するため、検討を進めています。

(4) より広域の地域課題の解決に向けた取組

- 1 地域課題等の解決に向け、地域ケア会議の開催をきっかけに商店会を主軸にしたひとり暮らし高齢者の見守りネットワーク強化に向けた検討を開始しました。引き続き、自治会町内会や地区連合の単位における活動だけではなく、住民の生活圏域を意識した幅広い関係づくりに取り組んでいきます。
- 2 区社協、区役所、区内地域ケアプラザ等とともに作成した専門職向けの地域活動・サービスリストを地域包括支援センター主催の居宅介護支援事業者連絡会等にて周

知し、ケアマネジャー等の専門職に地域活動情報を提供しました。また、新しく把握した活動や情報の変更点等を随時更新し、専門職が関わるより多くの利用者等に最新の活動情報が届くよう情報収集しています。

4 地域包括支援センター運営事業

(1) 総合相談支援業務

①地域におけるネットワークの構築

- 1 地域の会合(地区民児協、地区社協総会・理事会、自治会町内会での見守り活動の定例会等)に職員が分担して参加し、5職種カードを配布して地域包括支援センター相談窓口の周知を行うなど、顔の見える関係作りを図りました。
また、自治会、老人会、地区社協行事や地域の居場所等で地域の要請に応じて出張講座を実施し、ネットワークづくりに努めました。
- 2 潮田地区で活動するケアマネジャーの連絡会を2ヶ月に1回、定例開催しました。テーマを決めた意見交換や事例検討を通して支援者同士の顔の見える関係づくりができつつあります。また、区の地区担当職員に毎回参加を依頼し、地域のケアマネジャーに行政と連携しやすい環境を提供しています。
 - ・潮田地区居宅介護支援事業者連絡会(エリア内のケアマネジャー連絡会)6回
 - また、地区を超えた民生委員同士の交流を図り、ケアマネジャーの仕事について理解を得て今後の交流につなげることを目的として、民生委員研修会を開催しました。
 - ・民生委員研修会 同内容で2回
- 3 風呂の無い賃貸アパートで独居の高齢者の事例について、地域の住民や商店街の従業者等による緩やかな見守りと専門職の支援者とがどうすれば連携していけるかを考える個別ケース地域ケア会議を2回実施しました。商店会や周辺地域で、同じような独居の高齢者が集まる居場所となっている場の関係者に声掛けをし、町域を超えた生活圏で連携してゆるやかな見守りをするために何ができるか考える会議の開催につながりました。
 - ・個別ケース地域ケア会議 2回
 - ・包括レベル地域ケア会議 3回

②実態把握

- 1 独自に作成した集計様式を活用して個別相談の傾向を分析し、わかりやすく図表化してまとめた結果を運営協議会等で報告しました。
- 2 相談対応時に相談者の社会的背景にも目を向け、個別ニーズから地域特性を把握するようつとめました。
- 3 地域の諸行事・サロン等への参加や民生委員・自治会町内会役員からの個別相談で地域関係者とのネットワークを深め、地域資源の情報を収集しました。
銭湯など生活に必須な場の情報や商店街で高齢者が集まる場の情報を収集するなど生活状況の把握に努めました。
- 4 所内の5職種会議、区と区社協を加えた多職種連携会議を月1回ずつ開催し、地区ごとに情報共有や課題整理を行いました。
また、総合相談や介護予防ケアマネジメントケースから把握したニーズを随時生

活支援コーディネーターにフィードバックし、地域ケア会議や協議体の実施につなげました。

地域ケアプラザ全体で地域支援をする体勢を意識して協働しました。

③総合相談支援

総合相談件数 延べ 3,129 件(3 月末時点)

- 1 地域包括支援センター 3 職種が連携して相談者の状況に応じた支援を総合的に行い、必要に応じて適切な関係機関や制度、事業等につなげるよう努めました。
支援策を検討するにあたり、職員間における日常的な情報共有・支援方針の検討に加え、区役所との月 1 回の定例会議や職場内でのミーティング（5 職種会議、包括会議等）を通じて、多角的な視点で方向性の確認を行い、具体的な支援につなげました。
また、包括職員間の情報共有を円滑にするため毎朝のミニミーティングを実施し、対応した職員が不在時でも相談経過を把握しやすくするようノートを活用して予定を共有するなど工夫して、迅速かつ的確な対応を心がけました。
特に、複雑化した多問題家族については、区役所や区社協、民生委員・児童委員、介護保険事業者等、地域の関係者・関係機関等 多職種連携をしながら協働し、課題の解決に努めるとともに、適切な関係機関に繋ぐように努めました。
- 2 相談者の状況により、随時生活支援コーディネーターや地域活動・交流コーディネーターとも対応を検討し、ボランティアによる配食サービスや地域住民主体のサロン、元気づくりステーションの参加につなぐ等、地域資源を活用し地域活動者の支援にもなるよう努めました。
- 3 地域ケアプラザ内での 5 職種会議を活用して、子どもから高齢者までの幅広い分野の情報を共有化し、定期的に検討を行いました。
- 4 日常的な情報共有に加え定期的なミーティング（包括 MT、5 職種会議、多職種連携会議、常勤職員会議等）を活用し、関係機関との連携を強めることで、対象者を限定しない幅広い相談対応ができるよう努めました。
- 5 潮田 5 地区民生委員を対象に、地区を超えた民生委員同士の交流を図り、ケアマネジャーの仕事についての理解と今後の交流につなげることを目的として、民生委員研修会を開催しました。多くの方に参加できるように講座を夜間・日中と 2 回に分けて開催しました。（再掲）
今回は主任児童委員同士のグループを設定し、他に得られない機会と好評でした。地区を超えた懇談の機会を今後も継続し、さらに来年度はケアマネジャーとの交流の機会の検討をしています。

（２）権利擁護業務

①成年後見制度の活用促進・消費者被害の防止

成年後見及び金銭・財産管理関係相談(3 月末時点)

- ・延べ件数：124 件
- ・実人数：50 名

- 1 地域に出向いた際に広報誌等を活用し、地域包括支援センターが成年後見制度等、高齢者の権利を守るための身近な相談窓口であることをわかりやすく周知しまし

た。

- 2 地域での会合に参加した際に消費者被害防止についてチラシを配布しながら説明し、注意喚起を行いました。広報紙等の媒体を活用して不定期に情報を発信しました。
- 3 老人クラブで鶴見区版エンディングノートの講座を実施しました。前年度開催の地域住民主体のサロン（潮見橋：いこい亭）での講座がロコミでひろがり依頼につながりました。
 - ・出前講座 本町通1丁目、常盤会
- 4 相談対応時に、相談者・対象者の状況に応じて、申立支援・書類作成支援、必要な情報提供を行いました。

②高齢者虐待への対応

虐待(疑い含)相談(3月末時点)

- ・延べ件数：61件
- ・実人数 17名

- 1 地域住民や介護保険事業者等からの相談・通報に対して、横浜市統一様式を活用しながら随時、区役所と情報共有し、支援の方向性を検討、関係者の役割分担に基づき適切な支援が提供できるよう努めました。所内では、地域包括支援センター3職種それぞれの専門性を活かし、課題解決に向けた対応を検討しました。さらに、対応を通じて相談・通報者や関係者とも支援の方向性を検討することで、関わる人々がより早期発見・予防の意識を高めることも促進しました。

〈具体例として〉

- ・身体的な虐待が疑われる事例では、CMからの相談に対し同行訪問とカンファレンスを実施。「ショートステイを定期利用し当事者間の距離を保つ」という方針としたことで、生活が安定しました。
 - ・家族からの経済的な虐待が疑われる事例では、CMと同行訪問の他、区と連携して慎重に支援し経過を把握しつつ支援を継続しています。
 - ・家族からの心理的・身体的な虐待が疑われる事例では、家族からの訴えをきっかけとして区と包括で同行訪問し、様子を見ながら家族との信頼関係を作り、介護保険制度を活用して環境調整していく方針で支援中です。
- 2 潮田地区で活動するケアマネジャーの連絡会や民生委員研修会の開催・協力医懇談会・認知症初期チーム等を通じて地域の支援関係者との連携を図り、相談・通報しやすい関係づくりに取り組みました。(再掲)
 - 3 高齢者虐待防止に向けてサポートが必要だと考えられる相談者(介護者)へ随時情報提供していきましました。当館を拠点に開催されている「認知症介護者サロン in うしおだ」や「下町茶房」については、適時サロンに参加し情報共有に努めました。
 - 4 居宅介護支援事業者連絡会において、虐待防止についての情報提供と意見交換を実施しました。

③ 認知症

- 1 認知症知識の普及啓発と見守りの目を育てることを目的として、地域住民等を対象に「認知症サポーター養成講座」を開催しました。
＜当館単独でエリア内の講座＞
・仲通二丁目
- 2 潮田地区で活動している既存団体と連携して講座を開催し、地域のキャラバン・メイトと協働するよう努めました。
- 3, 4 地域に根ざしたキャラバン・メイト活動の活性化やスキルアップ、地域における認知症の人のための取り組みを推進することを目的として、エリア内のキャラバン・メイト連絡会を開催しました。
今年度は、他地区の活動紹介として、生麦 CP エリアのキャラバン・メイトに参加依頼し、自主的な活動の様子を発表いただきました。キャラバン・メイト同士の顔の見える関係ができたため、よりスキルアップできるよう連絡会を継続的に実施していくことになりました。次年度は、引き続き参加者同士の交流の機会とするとともに、実際の活動につなげるため、認知症関連講座等への協力体制づくり等の発展を目指し、連絡会の方向性及び実施回数等を検討します。
また、地域アセスメント情報を活かして担い手の発掘に取り組めます。
- 5 当館を拠点に開催されている「認知症介護者サロン in うしおだ」については、適時参加し活動への助言等を行ないました。助言を行う際には、当サロンを主催するキャラバン・メイト団体「しおかぜ会」の主体性を保ちながら、職員が毎月分担して記録写真の撮影を行い、「しおかぜ会」が作成する広報用に写真を提供する役割を担う等サポート的な関わりを継続しました。
また、地区センターで開催された認知症キッズサポーター養成講座においても周知協力等を行いました。
サロンだけではなく「しおかぜ会」の活動についても、その活動状況を把握しながら随時助言等を行っています。3月には、認知症に関する取り組みを促進するエリア内の社会福祉法人と協働でサポーターフォローアップ講座を開催しました。
その他、地域住民主催の認知症カフェ「下町茶房」の立ち上げを支援しました。昨年度の活動準備から協力し、今年度は広報誌による活動周知や活動への定期的な参加を通して必要に応じて参加者を総合相談につなぐ体制を作り、継続的に関わっています。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

① 地域住民、関係機関等との連携推進支援

- 1 地区民児協等の会合に5職種が分担・協力して参加し、住民主体の活動に関する情報収集・整理と関係構築に努めました。
また、地域で活動するケアマネジャーからの相談に応じ、地域の情報をケアマネジメントに活かせるよう支援しました。
- 2 介護保険制度の概要や介護予防の視点、ケアマネジャーの役割等について、地区民児協や出前講座等を利用して折に触れ周知しました。
上記に加え、11月に民生委員向けの研修会を実施し、居宅介護支援事業所の管理者を講師に招いて「ケアマネジャーの役割」について講話を行いました。参加した民生委員からは様々な質問があり、介護保険制度への理解を深める事が出来ました。(再掲)
- 3 潮田地区で活動するケアマネジャーの連絡会を2ヶ月に1回、定例開催しました。テーマを決めた意見交換や事例検討を通して支援者同士の顔の見える関係づくりができ

つつあります。一人でケースを抱えずに共有と相談によりチームで支援していく事への理解が広がり、ケアマネからの包括への相談も増えています。

区の地区担当職員に毎回参加を依頼し、地域のケアマネジャーが行政と連携しやすい環境づくりを行っています。(再掲)

・ケアマネ相談数(年間延べ件数)

H30年度 906件(H28年度 287件 H29年度 975件)

- 4 地域支援等に係る情報共有や検討のため、区役所、区社協との定例会議として多職種連携会議を毎月開催し、関係機関との連携強化を図りました。

②医療・介護の連携推進支援

- 1 CP協力医の協力を得て、依頼のあった地域の住民に向けて出前講座を開催しました。

また、協力医と潮田地区で働くケアマネジャーとの懇談会を2ヶ月に1度程度開催し、医師に直接相談できる機会を作りました。顔の見える関係の構築が進み協力医にもケアマネジャーとの連携を意識してもらえるようになりました。

- 2 主マネ連・つばさネット・連携拠点共済のMSW等医療関係者とケアマネジャーとの連絡会を担当主マネの一人として企画しました。入院・退院時連携ツールの講義とグループワークにより連携を検討できました。

主マネ連絡会主催新任ケアマネジャー実習を担当の一員として企画し、区内訪問看護ステーションとの同行実習等の連携を進めました。

- 3 鶴見区内、また川崎市内の病院のMSW等からの相談に対応し、連携して対象者の支援にあたりました。

- 4 医療機関主催の学習会や「つるみ在宅ケアネットワーク」に定期的に参加しました。また、区主催の多職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成研修に参加し、施設協力医と地域のケアマネの懇談会について事例発表しました。

③ケアマネジャー支援

- 1 3職種が連携・協働してケアマネジャーからの個別相談に対応しました。対応が難しい事例等については、ケアマネジャーとの同行訪問や、行政や関係機関を含めたカンファレンスの開催等の支援を行い、支援チームのサポートを実施しました。

- 2 ケアマネジャー同士の連携推進を目指し、潮田地区居宅介護支援事業者連絡会(以下、居介支連)を2ヶ月に1度、定期開催しました。テーマを決めた意見交換や事例検討、また区職員からの情報提供などを通じて、包括や区とも連携したチーム支援の在り方を学んでもらう場ともなり支援スキルの底上げにつながっています。

- 3 区主任ケアマネジャー連絡会主催の新任ケアマネジャー実習で企画を担当し、6回の連続講座の中で、区内施設や事業所の関係者による講義、訪問看護事業所での実習など、関係機関の協力により充実した内容の実習が実施でき参加者のスキル向上につながりました。終了後も参加者同士が相談し合える関係となり、地域包括支援センターに相談しやすい関係が築けました。(再掲)

- 4 多職種による地域アセスメントを踏まえてケアマネジャー支援を行いました。潮田地区居介支連にて生活支援コーディネーター作成の地域活動・サービスリストを配布しました。

(4) 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

- 1 風呂の無い賃貸アパートで独居の高齢者の事例について、地域の住民や商店街の従業者等による緩やかな見守りと専門職の支援者がどうすれば連携していけるかを考える地域ケア会議を2回実施しました。町会単位ではなく、商店会や周辺地域で同じような独居の高齢者が集まる居場所となっている場の関係者に声掛けをして、緩やかな見守りの在り方やどのような仕組みが可能か等についてエリア会議として次年度開催予定です。
- 2 医療機関主催の学習会や「つるみ在宅ケアネットワーク」、「多職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成研修」に参加し、各分野における関係者と顔の見える関係づくりに努めました。
- 3 連合町内会、地区社協、地区民児協等の地域会合や地域活動団体の活動に参加し、地域の取り組みとの協働を拡充しました。民生委員の関わる事業や老人会主催のサロン等把握している地域活動に職員が分担して参加し、協働できる関係作りを進めました。(再掲)
毎月、多職種連携会議にて潮田5地区ごとに情報共有と振り返りを行い、よりよい地域づくりに活かしました。(再掲)
- 4 潮田海側ネットワーク(5地区社協会長・事務局長会議)を開催し、各地区の現状や課題解決の取り組みについて情報共有を行いました。地域の各所で開催されているサロン活動や行事が活動参加者等のゆるやかな見守りつながった事例を紹介し、地域活動等の意義を伝える場となりました。

(5) 介護予防ケアマネジメント(指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業)

介護予防ケアマネジメント(指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業)

- 1 利用者本位の介護予防ケアマネジメントを実施し、現在できている生活が継続できるように自立支援の理念に基づいて支援しました。
要支援認定者が増加していく傾向にあり契約件数も増加する中、委託先との連携や委託先の新規開拓にも努めました。
- 2 住民同士のつながりや地域のインフォーマルな生活支援の情報を収集し、高齢者が持てる能力を活かしたその人らしい生活を継続できるように、これらの情報提供を担当者会議等で行い、地域のケアマネジャーやサービス事業所と協力しました。
委託先ケアマネジャーの開催する担当者会議には可能な限り同席しました。契約等も可能な限り包括職員から説明し、自立支援の理念に基づく支援となるよう助言しました。また、ケアマネジャーからの個別の相談にも対応して利用者本位のケアマネジメントができるよう支援しました。
- 3 ケアマネジメントCの対象者については、区役所の保健師、看護師と協働しましたが、地域活動への参加までは至りませんでした。

(6) 一般介護予防事業

一般介護予防事業

- 1 29年10月より元気づくりステーションとして活動している潮田東部地区4ヶ所の公園では、それぞれコグニサイズについても保健活動推進員が自主的に学び合い、実施しています。介護予防に資する講座も公園ごとに自主的に企画実施され、それらをサポートすることで地域住民とともに活動に取り組むことができました。
- 2 潮田中央地区での健康講座での地域のイベントで、保健活動推進員と共に住民の体力測定やロコモ予防について講話と運動を行い、健康づくりへの関心が高まる場となりました。
- 3 介護予防に関する地域への普及啓発や人材確保を目的として、潮田東部地区の保健活動推進員の会議に参加しました。また、生活支援コーディネーターとともに潮田西部地区の保健活動推進員と協力し、入船公園でウォーキング講座を実施しました。
また、2月に地域で活動するボランティア向けの介護予防事業の講座を実施し、活動のヒントになるとの感想がありました。
- 4 寛政地区で実施している「寛政さくら会」での講座の場を活用して、介護予防・健康づくりに関する普及啓発活動を実施しました。地域ケアプラザや区役所等の講義だけではなく、地域でヘルスマイトや消費生活推進員を務めている参加者が、各関連分野についての講師を担う内容も取り入れることができました。今後も参加者が自主的に活動していけるよう支援を継続します。
- 5 日商岩井鶴見マンションの集会室において、老人会、自治会厚生部の共催による住民向け「ひざひざワックン体操とコグニサイズ」は定例化され活動が継続しています。「はまちゃん体操」も開始し参加者の意欲向上にもつながっていますが、参加者が固定化してきているため、住民同士が声かけをしていこうと自主的な働きかけが始まっています。
- 6 一般高齢者や事業対象者、要支援1, 2の認定を受けた高齢者に対して、介護予防の知識と実技を学ぶ機会の提供を目的として「GO!GO!健康講座」を6月に開催しました。後半は会場を潮田公園コミュニティハウスとして、1～2月に開催し、ケアプラザへは参加しにくい高齢者の参加がありました。
次年度はケアプラザだけでなく、ケアプラザから離れた場所に住む方にも参加しやすいように地域の施設（特養しょうじゅの里等）の利用も検討します
7. 地域住民が主催するサロン、茶話会等において5職種で連携して出前福祉講座を開催し、福祉保健に関する情報提供をおこないました
 - ・潮田中央地区 4回
 - ・潮田東部地区 4回
 - ・潮見橋地区 7回
 - ・潮田西部地区 8回
 - ・小野町地区 4回 (再掲)

5 その他

施設の適正な管理について

(1) 施設の維持管理について

- 1 設備等の故障により地域ケアプラザを利用される方に不便をかけることがないよう、職員による日常点検及び専門業者による定期巡回点検を月1回実施し、設備の維持管理に努めました。また、点検により把握した不良箇所について改善を行いました。
- 2 安心・安全に利用していただけるよう日頃より整理整頓を心掛けると共に、専門業者に日常清掃および定期清掃を委託し、施設の清潔を保つよう努めました。
- 3 経年劣化や急な故障等に伴う修繕箇所について区役所と協議を行いながら適切に対処しました。また、り地域の方々より「玄関が暗く入りにくい。」というお声に応え、玄関自動扉の塗装を明るい色に変更し利用者アンケート等にて好評いただきました。
＜主な修繕等＞
平成30年度修繕・改修工事 総額 ￥503,121.-
 - ・1階調理室ガスコンロ修理
 - ・1階身障トイレ漏水修理
 - ・潮田交流プラザ空調チラーの断水開閉弁の故障非常用照明修繕（共用部）
 - ・非常用照明修繕（専有部介護保険）
 - ・P看板・入庫案内灯撤去工事（共用部）
 - ・2階女子トイレ漏水修理工事
 - ・給湯二次ポンプ修繕工事
 - ・屋上修繕工事
- 4 修繕等、施設の維持管理費用については用途に基づき介護保険事業と委託事業に厳密に区分し、共有スペースについては毎月開催する潮田交流プラザ三施設長会議（横浜市国際学生会館、潮田地区センター、潮田地域ケアプラザ）で協議を行い、一体的に実施しました。

(2) 効率的な運営への取組について

- 1 地域ケアプラザの役割を果たせるよう各部門で連携し、地域課題の共有化を図るとともに地域関係機関・団体とも連携した運営に努めました。
- 2 潮田交流プラザ三施設で一体的に設備保守管理や設備の修繕、光熱水費の節約に取り組み、効率的かつ経済的な施設運営に努めました。
- 3 各種事業は、優先順位を考慮するとともに年度予算の適宜執行に留意し、経費の削減、資源の有効活用を常に考慮しながら実施しました。また、法人で物品購入等の一括入札により経費を抑えるよう努めました。
- 4 ヨコハマ3R夢に基づくごみの少量化、資源の有効活用、環境への配慮を行いました。
- 5 効率の良い業務遂行のためにワークライフバランスを推進し、定時帰宅日（かえる day）を設定し、計画的に業務を進める取組を実施しました。

(3) 苦情受付体制について

- 1 「横浜市社協・苦情解決規則」及び「横浜市社協・苦情解決規則に基づく苦情相談対応マニュアル」に沿って苦情受付の体制（法律・福祉・人権の各分野から第三者の苦情解決調整委員を依頼し、サービスの向上等を目的に苦情解決に関わる助言等を受ける体制）を整えています。その中で、苦情解決調整委員から出された提言について積極的に取り組みました。
- 2 苦情受付体制についてわかりやすいよう窓口に掲示しています。
平成30年度は1件受付し、適正に対応しました。
法人内の他施設の苦情等について所長会で共有し、法人全体で業務改善に取り組みました。
- 3 地域ケアプラザを利用される方からのご意見・ご要望を運営に反映できるように法人全体の取り組みとして「ご意見箱」を設置しています。今年度は1件ありました。
- 4 利用者満足度調査として地域ケアプラザ利用者アンケート（年1回）を実施し、意見や要望を事業計画や運営面に反映させています。（アンケート件数：106件）

(4) 緊急時（防犯・防災・その他）の体制及び対応について

- 1 施設内、法人内、併設施設並びに行政との連絡体制を整え、緊急時の対応に備えると同時に、施設内事故・車両事故対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症予防マニュアル等は毎年見直しを行い万が一の事故発生に備えています。また、災害時に管理職及び法人本部と連絡が取れるよう災害用PHSを整備しています。
- 2 防災訓練を適正に実施するとともに、職員の防災に対する意識を高める目的で消防署長に訓練の立ち会いを依頼し、講評や講話をしていただきました。災害時は併設施設である横浜市国際学生会館、潮田地区センターとの協力が不可欠であるため、訓練についても役割分担のうえ合同で実施しました。
第1回防災訓練：平成30年4月28日（土）参加者：78名
第2回防災訓練：平成30年12月15日（土）参加者：90名
- 3 災害時特別避難場所としての役割を認識するとともに災害時用の備蓄物資を適正に保管しています。また、有事に備えて、職員の参集訓練を実施しました。

(5) 事故防止への取組について

- 1 毎月、施設の事故報告を集計分析し、法人内の所長会で報告を行うとともに法人全体としても共有化を図りました。施設内においても職員会議等で事故の分析、再発防止に向けた取り組みについての検討を行いました。
- 2 事故につながる可能性があるヒヤリハット事例を職員で速やかに共有するとともに、原因分析を行い事故防止に努めました。
- 3 事業実施にあたり事故予防に努めるとともに、万が一事故が起きてしまった場合に速やかに対応ができるよう、事故対応マニュアルの整備・更新を行いました。
- 4 館内に手指用の消毒液や薬液を使用した加湿器の設置を行い、来館者の衛生管理に配慮しました。また、感染症予防研修参加者による伝達研修を実施し、感染症予防に努めました。

(6) 個人情報保護の体制及び取組について

- 1 「横浜市個人情報の保護に関する条例」及び法人の「社会福祉法人横浜市社会福祉協議会の保有する個人情報の保護に関する規程」に基づき、個人情報の保護に努めました。
- 2 法人及び施設において個人情報保護に関する研修を実施し、職員への意識啓発を行い個人情報の保護に努めるとともに、チェックシートを活用し個人情報の適正な取扱いを常に意識できるよう職員間で確認を行いました。また、ケースファイル等、個人情報の記載された書類は施錠保管を徹底しています。
- 3 個人情報書類取扱時は複数職員による確認作業を徹底しています。
また、個人情報の書類はFAX送信を原則禁止しています。
- 4 法人の取り組みについては法人のホームページに掲載し、施設においては「個人情報取扱業務概要説明書」を窓口に整備しています。

(7) 情報公開への取組について

- 1 法人の「社会福祉法人横浜市社会福祉協議会の保有する情報の公開に関する規程」に基づき情報の公開を行っています。なお、今年度、開示請求はありませんでした。
- 2 窓口に閲覧用の決算書、個人情報取扱業務概要説明書、その他情報公開用資料を設置し、施設概要、サービス内容等広報資料を見やすく、わかりやすく、常に最新の情報を提供するよう努めました。また、法人ホームページにおいて積極的に予算・決算、事業内容等を公表しています。
- 3 通所介護部門と指定管理部門（地域活動・交流部門、地域包括支援センター、生活支援体制整備事業）においてそれぞれ広報紙を発行し、施設情報の周知に努めました。

(8) 人権啓発への取組について

- 1 人権およびプライバシーへの配慮について、意識の醸成を目的に全職員を対象とした研修を実施しました。また、年度途中で採用した職員に対しても入職時研修を行いました。
- 2 社会福祉従事者として、人権問題についてさまざまな観点から理解を深めることを目的に職員の代表者が研修を受講し、他の職員へ内容を伝達することで職員全体の意識向上に取り組みました。

(9) 環境等への配慮及び取組について

- 1 横浜市が提唱する「ヨコハマ3R夢」に基づき、ごみの少量化、再資源化に努めました。
また、コピー用紙の裏紙使用や両面印刷により使用量の削減に努めました。
- 2 使用していない部屋の消灯、電灯の間引き、事務機器の電源オフ、パソコン画面の照度ダウンなどの節電や節水に努めました。
また、室内温度の設定も夏期は28度、冬期は20度を基本設定とし（ただし、利用されている方の身体状況や外気温の状況によってはその都度、適切な温度設定を行いました）、法人全体でもクールビズ運動を5/1～10/31の間に実施しました。
- 3 夏季はゴーヤによるグリーンカーテンを作成し、省エネに取り組みました。

介護保険事業

● 指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業

《職員体制》

管理者（主任介護支援専門員）	1名（常勤兼務）
社会福祉士	1名（常勤兼務）
看護師	1名（常勤兼務）
主任介護支援専門員	1名（常勤兼務）
介護支援専門員	2名（非常勤専任）

《目標に対する成果等》

「本人のできることはできる限り本人が行う」ことを基本理念に要支援1・2と認定された地域の高齢者に対し、介護予防・介護予防ケアマネジメントの支援計画を作成しました。

1 目標指向型プランの作成

高齢者自身のできることを大切に自立支援の理念に基づいたプランを心がけ、利用者が意欲的に取り組めるよう支援しました。

2 他機関との連携

行政機関、地域の保健・医療・福祉サービス、ボランティア団体等との連携を図り、多様な社会資源を総合的かつ効率的に利用できるよう調整し、利用者の立場に立って公正中立な計画を作成しました。

3 地域の居宅介護支援事業所との連携

介護予防プラン業務の委託に当たっては、公正・中立にエリア内の居宅介護支援事業所の情報を利用者へ伝え、適切なケアマネジメントが行えるよう支援しました。その際には当該事業所との綿密な情報交換と意見交換を行い、必要に応じて同行訪問や担当者会議への参加など連携を図りました。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

●実費負担はありませんでした。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- 利用者本位のサービス提供に取り組みました。
- その人らしく生活できるよう、十分に相談しながら計画を作成しました。
- 包括支援システムを活用し、事務作業の効率化を図りました。

《利用者実績》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
232	227	242	249	252	259
10月	11月	12月	1月	2月	3月
263	263	275	274	276	282

●居宅介護支援事業

《職員体制》

管理者 1名（常勤兼務）
介護支援専門員 4名（常勤兼務1名 非常勤専任3名）

《目標に対する成果等》

個々のニーズに沿ったサービス計画書を作成し、誰もが安心して自分らしく在宅生活を送ることができるよう支援しました。

- 1 利用者の意思を尊重し心身の状況や環境等に応じて、可能な限り住み慣れた地域で自立した日常生活（要介護状態の予防、軽減又は悪化の防止等）を送ることを目標に居宅サービス計画を作成しました。
- 2 関係行政機関、地域の保健・医療・福祉サービス、ボランティア団体等との綿密な連携を図り、多様な事業者から総合的かつ効率的にサービスが提供されるように調整し、常に利用者の立場に立って公正中立な居宅サービス計画を作成しました。
- 3 介護支援専門員等の資質向上を図るため、採用時研修（採用後6ヶ月以内）定期研修（年1回以上）等の機会を設け、業務体制を整備しました。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

●実費負担はありませんでした。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- ケアマネジャーの空き情報を提供し、新規申込み利用者を受け入れました。
- 利用者のニーズを重視し、ケアマネジャーの専門的アドバイスを含めた居宅サービス計画書を作成しました。
- 支援困難ケース等については、地域包括支援センターと連携をとり、関係機関と連携し、課題解決に取り組みました。

《利用者実績》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
136	135	135	137	132	127
10月	11月	12月	1月	2月	3月
139	136	140	137	132	128

● 通所介護

《提供するサービス内容》

- ①生活指導（相談援助）
- ②機能訓練（日常動作訓練）
- ③口腔機能向上サービス
- ④介護サービス
- ⑤健康状態の確認
- ⑥送迎
- ⑦給食
- ⑧入浴

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

● 1割負担分	● 2割負担分	● 3割負担分
（要介護1） 709円	1,415円	2,121円
（要介護2） 810円	1,633円	2,449円
（要介護3） 926円	1,850円	2,774円
（要介護4） 1,036円	2,069円	3,102円
（要介護5） 1,144円	3,427円	3,427円
● 食費負担 750円		

※ その他、実費相当を徴収するものについては、各施設で項目を増やして記載をしてください。

《事業実施日数》 週 7 日

《提供時間》 10:15~15:20（半角で入力 例 9:00~15:00）

《職員体制》

職種	従事するサービス内容等	人員
管理者	一元的に業務を管理します。	1名（常勤）
生活相談員	ご利用者等からの相談に応じ、利用申込の調整や通所介護計画を作成します。	3名 （常勤3名）
看護職員	ご利用者の健康状態を把握し、ご家族に対し介護方法の指導等を行います。	7名 （非常勤7名）
介護職員	入浴、食事及び排泄等の介護を行い、事業所への送迎を行います。	12名 （常勤3名+非常勤9名）
機能訓練指導員	看護職員が兼務し、医療的な立場から機能訓練のプログラムを作成し、ご利用者に対し必要な指導を行います。	7名 （非常勤7名）
運転員	安全運転で、ご利用者のご自宅～事業所の送迎を行います。	4名 （非常勤4名）

《目標に対する成果等》

利用者・家族の満足度アップや、個々のニーズに応える為、利用者アンケートを実施しました。また、所内居宅介護支援事業所・介護予防支援事業所との連携会議を継続実施し、情報共有や、利用者ニーズの把握に繋げ、サービスの改善に努めました。

- 利用者やケアマネジャー、職員からの聞き取りをもとに課題を抽出し、所内研修の開催等、人材育成に取り組みました。

- 利用者・家族と職員の信頼関係を重視し、一人ひとりと丁寧なコミュニケーションをとるよう努めました。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

《利用者実績（延べ人数）》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
628	618	567	592	588	586
10月	11月	12月	1月	2月	3月
607	618	608	604	568	683

● 第1号通所事業

《提供するサービス内容》

- ①生活指導（相談援助）
- ②機能訓練（日常動作訓練）
- ③口腔機能向上サービス
- ④介護サービス
- ⑤健康状態の確認
- ⑥送迎
- ⑦給食
- ⑧入浴

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

- | | | |
|----------------|---------|----------|
| ● 1割負担分 | ● 2割負担分 | ● 3割負担分 |
| （要支援1） 1, 792円 | 3, 583円 | 5, 375円 |
| （要支援2） 3, 637円 | 7, 344円 | 11, 016円 |
| ● 食費負担 750円 | | |

※ その他、実費相当を徴収するものについては、各施設で項目を増やして記載をしてください。

《事業実施日数》 週7日

《提供時間》 10:15~15:20

《職員体制》

職種	従事するサービス内容等	人員
管理者	一元的に業務を管理します。	1名（常勤）
生活相談員	ご利用者等からの相談に応じ、利用申込の調整や通所介護計画を作成します。	3名 （常勤3名）
看護職員	ご利用者の健康状態を把握し、ご家族に対し介護方法の指導等を行います。	7名 （非常勤7名）
介護職員	入浴、食事及び排泄等の介護を行い、事業所への送迎を行います。	12名 （常勤3名+非常勤9名）
機能訓練指導員	看護職員が兼務し、医療的な立場から機能訓練のプログラムを作成し、ご利用者に対し必要な指導を行います。	7名 （非常勤7名）
運転員	安全運転で、ご利用者のご自宅～事業所の送迎を行います。	4名 （非常勤4名）

《目標に対する成果等》

- 1 利用者の可能性を大切にして、「できる」が継続できるように、更には、「今までよりできた」につながることでできる支援を目指し、サービスを提供しました。
- 2 専門職として、状況を理解する力、課題に対応する力を養うため、所内研修の実施や所外研修へ参加し、知識や技術の向上に努めました。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- 利用者・家族の満足度アップや、個々のニーズに応える為、利用者アンケートを実施しました。また、所内居宅介護支援事業所・介護予防支援事業所との連携会議を継続実施し、情報共有や、利用者ニーズの把握に繋げ、サービスの改善に努めました。

- 利用者やケアマネジャー、職員からの聞き取りをもとに課題を抽出し、所内研修の開催等、人材育成に取り組みました。
- 利用者・家族と職員の信頼関係を重視し、一人ひとりと丁寧なコミュニケーションをとるよう努めました。

《利用者実績（契約者数）》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
1	0	3	2	4	3
10月	11月	12月	1月	2月	3月
8	4	7	2	4	3

平成30年度「瀬田地域ケアプラザ」
収支予算書及び報告書（一般会計）＜地域活動交流＞

収入の部

(単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	18,204,980	0	18,204,980	18,061,712	143,268	横浜市より
利用料金収入			0	0	0	
指定管理料充当 事業	30,000		30,000		30,000	
自主事業収入			0	108,826	△ 108,826	
雑入	0		0	8,197	△ 8,197	
印刷代	0		0	8,170	△ 8,170	
自動販売機手数料			0	0	0	
駐車場利用料金収入			0	0	0	
その他(指定管理料充当)	0		0	27	△ 27	
その他(施設使用料相当額 法人負担分)	1,977,500		1,977,500		1,977,500	
その他(提案時控除 法人負担分)	30,000		30,000		30,000	
収入合計	20,242,480	0	20,242,480	18,178,735	2,063,745	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	11,756,000	0	11,756,000	10,180,228	1,575,772	
本俸	9,000,000		9,000,000	7,872,504	1,127,496	
社会保険料	900,000		900,000	484,765	415,235	
手当計	1,000,000		1,000,000	1,719,959	△ 719,959	
健康診断費	30,000		30,000	26,775	3,225	
勤労者福祉共済掛金	20,000		20,000	6,250	13,750	ハマふれんど
退職給付引当金繰入額	806,000		806,000	69,975	736,025	
その他	0		0	0	0	
事務費	2,334,000	0	2,334,000	2,449,342	△ 115,342	
旅費	20,000		20,000	10,586	9,414	
消耗品費	200,000		200,000	236,626	△ 36,626	
会議謝礼金	0		0	0	0	
印刷製本費	140,000		140,000	140,798	△ 798	
通信費	220,000		220,000	200,493	19,507	
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0	
横浜市への支払分			0	0	0	
その他			0	0	0	
備品購入費	65,000		65,000	193,405	△ 128,405	
図書購入費	0		0	0	0	
施設賠償責任保険	60,000		60,000	17,681	42,319	
職員等研修費	10,000		10,000	4,884	5,116	
振込手数料	5,000		5,000	216	4,784	
リース料	1,400,000		1,400,000	45,080	1,354,920	
手数料	44,000		44,000	1,944	42,056	
地域協力費	170,000		170,000	186,000	△ 16,000	
その他	0	0	0	1,411,629	△ 1,411,629	
事業費	369,000	0	369,000	173,605	195,395	
運営協議会経費	42,000		42,000	25,152	16,848	
指定管理料充当 事業	327,000		327,000	148,453	178,547	
管理費	4,813,000	0	4,813,000	4,332,984	480,016	
建築物・建築設備点検	0	0	0	0	0	
光熱水費	1,455,000	0	1,455,000	1,992,295	△ 537,295	
電気料金			0	0	0	
ガス料金			0	0	0	
水道料金			0	0	0	
清掃費	1,500,000		1,500,000	0	1,500,000	
修繕費	474,000	0	474,000	228,158	245,842	
機械警備費	45,000		45,000	0	45,000	
設備保全費	506,000	0	506,000	0	506,000	
空調衛生設備保守	300,000		300,000	0	300,000	
消防設備保守	35,000		35,000	0	35,000	
電気設備保守	18,000		18,000	0	18,000	
害虫駆除清掃保守	10,000		10,000	0	10,000	
駐車場設備保全費	0		0	0	0	
その他保全費	143,000		143,000	0	143,000	
共益費	750,000		750,000	0	750,000	
その他	83,000		83,000	0	83,000	
公租公課	940,480	0	940,480	814,418	126,062	
事業所税			0	0	0	
消費税	940,480		940,480	814,418	126,062	
印紙税			0	0	0	
その他()			0	0	0	
事務経費(計算根拠を説明欄に記載)	0	0	0	0	0	
本部分			0	0	0	
当該施設分			0	0	0	
二一ス対応費			0	0	0	
支出合計	20,212,480	0	20,212,480	17,950,577	2,261,903	
差引	30,000	0	30,000	228,158	△ 198,158	

自主事業費収入	170,000		170,000	148,453	21,547	自主事業への参加料等
自主事業費支出	170,000		170,000	148,453	21,547	自主事業経費
自主事業収支	0	0	0	0	0	

管理許可・目的外使用許可収入	0		0	0	0	駐車場利用料金・自動販売機手数料収入等法人収入
管理許可・目的外使用許可支出	0		0	0	0	使用料(横浜市への支払等)
管理許可・目的外使用許可収支	0		0	0	0	

平成30年度「潮田地域ケアプラザ」
収支予算書及び報告書（特別会計）＜包括・介護予防・生活支援＞

収入の部

(単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料（包括）	29,717,000	0	29,717,000	25,939,624	3,777,376	横浜市より
指定管理料（介護予防）	151,000		151,000	152,334	△ 1,334	横浜市より
指定管理料（生活支援）	5,789,000		5,789,000	5,580,114	208,886	横浜市より
利用料金収入			0		0	
指定管理料充当事業（包括）	0		0		0	
指定管理料充当事業（介護予防）	0		0		0	
指定管理料充当事業（生活支援）	0		0		0	
自主事業収入			0	0	0	
雑入	0	0	0	5,964	△ 5,964	
印刷代	0		0	5,911	△ 5,911	
自動販売機手数料	0		0	0	0	
駐車場利用料収入	0		0	0	0	
その他（指定管理充当）	0		0	53	△ 53	
その他（提案時控除 法人負担分）	1,384,000		1,384,000		1,384,000	
収入合計	37,041,000	0	37,041,000	31,678,036	5,362,964	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	27,209,000	0	27,209,000	23,489,952	3,719,048	
本俸	25,000,000		25,000,000	13,872,600	11,127,400	
社会保険料	250,000		250,000	1,652,667	△ 1,402,667	
手当計	1,600,000		1,600,000	7,679,385	△ 6,079,385	
健康診断費	54,000		54,000	55,125	△ 1,125	
勤労者福祉共済掛金	36,000		36,000	20,250	15,750	ハマふれんど
退職給付引当金繰入額	269,000		269,000	209,925	59,075	
その他	0		0	0	0	
事務費	1,882,000	0	1,882,000	960,267	921,733	
旅費	200,000		200,000	13,343	186,657	
消耗品費	230,000		230,000	123,574	106,426	
会議随費	0		0	0	0	
印刷製本費	230,000		230,000	157,585	72,415	
通信費	500,000		500,000	280,273	219,727	
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0	
横浜市への支払分	0		0	0	0	
その他	0		0	0	0	
備品購入費	239,000		239,000	116,983	122,017	
図書購入費	0		0	0	0	
施設賠償責任保険	50,000		50,000	4,700	45,300	
職員等研修費	42,000		42,000	49,924	△ 7,924	
振込手数料	54,000		54,000	648	53,352	
リース料	227,000		227,000	25,706	201,294	
手数料	60,000		60,000	0	60,000	
地域協力費	50,000		50,000	0	50,000	
その他	0	0	0	187,531	△ 187,531	
事業費	1,190,000	0	1,190,000	6,015,375	△ 4,825,375	
協力医	630,000		630,000	252,000	378,000	
指定管理料充当 事業（包括）	100,000		100,000	30,927	69,073	
指定管理料充当 事業（介護予防）	151,000		151,000	152,334	△ 1,334	
指定管理料充当 事業（生活支援）	309,000		309,000	5,580,114	△ 5,271,114	
管理費	1,280,000	0	1,280,000	1,151,797	128,203	
建築物・建築設備点検			0		0	
光熱水費	500,000	0	500,000	529,597	△ 29,597	
電気料金			0	0	0	
ガス料金			0	0	0	
水道料金			0	0	0	
清掃費	396,000		396,000		396,000	
修繕費	126,000		126,000		126,000	
機械整備費	16,000		16,000		16,000	
設備保全費	108,000	0	108,000	0	108,000	
空調衛生設備保守	53,000		53,000		53,000	
消防設備保守	10,000		10,000		10,000	
電気設備保守	5,000		5,000		5,000	
害虫駆除清掃保守	2,000		2,000		2,000	
駐車場設備保全費	0		0		0	
その他保全費	38,000		38,000		38,000	
共益費	134,000		134,000		134,000	
その他	0		0		0	
公租公課	0	0	0	0	0	
事業所税			0		0	
消費税	0		0		0	
印紙税			0		0	
その他（ ）			0		0	
事務経費（計算根拠を説明欄に記）	0	0	0	0	0	
本部分			0		0	
当該施設分			0		0	
二一ス対応費			0		0	
支出合計	31,561,000	0	31,561,000	31,617,391	△ 56,391	
差引	5,480,000	0	5,480,000	60,645	5,419,355	

自主事業費収入	220,000		220,000	203,561	16,439	自主事業への参加料等
自主事業費支出	220,000		220,000	203,561	16,439	自主事業経費
自主事業収支	0		0	0	0	

管理許可・目的外使用許可収入			0		0	駐車場利用料金・自動販売機手数料収入等法人収入
管理許可・目的外使用許可支出			0		0	使用料(横浜市への支払等)
管理許可・目的外使用許可収支	0	0	0	0	0	

★指定管理業務・委託業務として実施している介護保険事業のみ、対象です。

平成30年度 地域ケアプラザ収支予算書及び報告書<介護保険事業分>

施設名：潮田地域ケアプラザ

平成30年4月1日～平成31年3月31日

(単位：千円)

	科目	介護予防支援			居宅介護支援			通所介護			予防通所介護・第1号通所介護		
		予算	決算	差引	予算	決算	差引	予算	決算	差引	予算	決算	差引
収入	介護保険収入	7386	7753	-367	22202	22213	-11	74746	77934	-3188			0
	その他	7386	7738	-352	1667	6	1661	135	23	112	0	0	0
	介護予防ケアマネジメント 費	7386	7738	-352			0			0			0
	事業・負担金収入	0		0	1667	6	1661	5	5	0			0
				0			0			0			0
				0			0			0			0
	その他			0			0	130	18	112			0
収入合計(A)		14772	15491	-719	23869	22219	1650	74881	77957	-3076	0	0	0
支出	人件費	6156	5862	294	18370	18651	-281	43558	44791	-1233			0
	事務費	36	26	10	91	77	14	471	641	-170			0
	事業費	312	2	310	898	1139	-241	9798	9221	577			0
	管理費			0	220	136	84	12600	11563	1037			0
	その他	6104	7754	-1650	547	0	547	3216	2	3214	0	0	0
	利用者負担軽減額			0			0			0			0
	消費税			0			0			0			0
	介護予防プラン委託料	6104	7754	-1650			0			0			0
				0			0			0			0
	その他			0	547		547	3216	2	3214			0
支出合計(B)		12608	13644	-1036	20126	20003	123	69643	66218	3425	0	0	0
収支(A)-(B)		2164	1847	317	3743	2216	1527	5238	11739	-6501	0	0	0

※ 介護予防プランを他事業者へ委託する場合の取扱は、介護報酬を一旦全額収入に計上した後、他事業者へ委託料として支払う分を支出に計上してください。

※ 上記以外の事業を実施している場合は、事業ごとに列を追加して記載してください。

平成30年度 自主事業収支報告書

横浜市潮田地域ケアプラザ

事業名	①募集対象者	自主事業決算額							
	②募集人数	総経費	収入			支出			
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他	
いきいきふれあいサロン 「フレンド会」	高齢者	0	地活	0	0	0	0	0	0
	10		包括						
	-		介護						
			生活						
障がい者青年学級 「じゃりんまんも」	障害者	0	地活	0	0	0	0	0	0
	15		包括						
	-		介護						
			生活						
夏休み障がい児 余暇支援「つるみサマー フレンド2018」	障害児	28,576	地活	28,576		28,576	10,000	11,076	7,500
	6		包括						
	1,000		介護						
			生活						
歌声サロン	地域	0	地活	0	0	0	0	0	0
	15名×月2回		包括						
	-		介護						
			生活						
ふれあい喫茶PORT	地域	0	地活	0	0	0	0	0	0
	10名×月1回		包括						
	-		介護						
			生活						
配食活動 「らんちさるびあ」	高齢者・障害者	0	地活	0	0	0	0	0	0
	50		包括						
	-		介護						
			生活						
父親育児支援講座	子ども	1,680	地活	1,680	0	0	0	0	1,680
	27		包括						
	-		介護						
			生活						
施設利用者・ ボランティア交流会	施設利用団体・ボランティア活動者	7,156	地活	7,156	0	0	0	7,156	0
	24		包括						
	-		介護						
			生活						
グリーンカーテン	地域	3,382	地活	3,382	0	0	0	3,382	0
	-		包括						
	-		介護						
			生活						
潮田交流プラザ秋まつり	地域	94,169	地活	94,169	0	80,250	0	9,569	84,600
	-		包括						
	-		介護						
			生活						

事業ごとに別紙に記載してください。

平成30年度 自主事業収支報告書

事業名	①募集対象者	自主事業予算額							
	②募集人数	総経費	収入			支出			
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他	
よこはまシニア ボランティアポイント 登録研修会	地域	0	地活	0	0	0	0	0	0
	14		包括						
	-		介護						
			生活						
認知症サポーター養成講座	地域住民	0	地活						
	随時		包括	0	0	0	0	0	0
	-		介護						
			生活						
潮田CPエリア 認知症キャラバン・メイト 連絡会	潮田地区のキャラバンメイト	8,771	地活						
	30名×1回		包括	8,771	0	0	0	0	8,771
	-		介護						
			生活						
成年後見制度 普及啓発講座	地域住民	0	地活						
	随時		包括	0	0	0	0	0	0
	-		介護						
			生活						
終活講座	地域住民	0	地活						
	随時		包括	0	0	0	0	0	0
	-		介護						
			生活						
高齢者虐待防止・対応 普及啓発講座	ケアマネ・民生委員	0	地活						
	年1回		包括	0	0	0	0	0	0
	-		介護						
			生活						
下町茶房	介護者	0	地活						
	数名×月1回		包括						
	-		介護	0	0	0	0	0	0
			生活						
介護者サロンinうしおだ	介護者	0	地活						
	数名×月1回		包括						
	-		介護	0	0	0	0	0	0
			生活						
施設協力医と地域のケ アマネとの懇談会	地域のケアマネ	0	地活						
	4名×6回		包括	0	0	0	0	0	0
	-		介護						
			生活						
潮田地区居宅介護支援 事業者連絡会	地域のケアマネ	0	地活						
	15名×6回		包括	0	0	0	0	0	0
	-		介護						
			生活						
寛政さくら会	①地域高齢者	16,720	地活						
	20		包括						
	-		介護	16,720	0	0	10,000	0	6,720
			生活						
体力測定会	地域住民	0	地活						
	40		包括						
	-		介護	0	0	0	0	0	0
			生活						
認知症予防講座	地域住民	0	地活						
	20×2回		包括						
	-		介護	0	0	0	0	0	0
			生活						

事業ごとに別紙に記載してください。

平成30年度 自主事業収支報告書

事業名	①募集対象者	自主事業予算額							
	②募集人数	総経費	収入			支出			
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他	
GOGO健康講座	高齢者	81,323	地活	0	0	76,000	3,363	1,960	
	20×4回×2		包括						
	-		介護						81,323
			生活						
地域グループ育成支援	地域住民	30,000	地活	0	0	30,000	0	0	
	20×2回		包括						
	-		介護						30,000
			生活						
地域住民向け出前福祉講座	地域住民	0	地活	0	0	0	0	0	
	30名×6回程度		包括						
	-		介護						
			生活						
民児協対象研修会	地域の民生委員	22,156	地活	0	0	10,000	0	12,156	
	35名×2回		包括						22,156
	-		介護						
			生活						
地域活動等における協議の場	地域住民等	14,591	地活	0	0	0	0	14,591	
	20		包括						
	-		介護						
			生活						14,591
地域アセスメント	-	30,000	地活	0	0	0	0	30,000	
	-		包括						
	-		介護						
			生活						30,000
潮田海側ネットワーク	地域住民等	13,490	地活	0	0	0	0	13,490	
	×2回		包括						
			介護						
			生活						
			地活						
			包括						
			介護						
			生活						
			地活						
			包括						
			介護						
			生活						
			地活						
			包括						
			介護						
			生活						
			地活						
			包括						
			介護						
			生活						

事業ごとに別紙に記載してください。

平成30年度 自主事業報告書

横浜市潮田地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
いきいきふれあいサロン 「フレンド会」	<p><目的> 地域の高齢者の仲間づくりや閉じこもり防止</p> <p><内容> 小物づくり、体操、外出等のレクリエーションを行う。</p>	毎月 15回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
障がい者青年学級 「じゃりんまんも」	<p><目的> 障がいのある青年の余暇支援・参加者同士の交流</p> <p><内容> 障がいのある青年とボランティアによるレクリエーション、外出行事等を行う。</p>	毎月 12回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
夏休み障がい児余暇支援 「つるみサマーフレンド2018」	<p><目的> 学齢障がい児の夏休み期間における居場所の提供及びに保護者のレスパイト</p> <p><内容> 障害児の夏休みの余暇支援として、ボランティアと共にレクリエーションを実施し、交流を図る。</p>	8月 1回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
歌声サロン	<p><目的> 地域の高齢者同士の交流や閉じこもり防止、定期的な社会参加の機会をつくる。</p> <p><内容> ボランティアの方の楽器演奏等により、歌を歌って交流を深める。</p>	月2回 (第1・4火曜日) 21回

平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
ふれあい喫茶 PORT	<p><目的> 地域の高齢者同士の交流や閉じこもり防止、定期的な社会参加の機会をつくる。</p> <p><内容> 参加者同士のおしゃべりを中心に交流を深める。</p>	月1回 12回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
配食活動 「ランチさるびあ」	<p><目的> 食事づくりが困難なひとり暮らし高齢者等の食の確保と安否確認を行う。</p> <p><内容> ボランティアグループによるお弁当づくりや配達を行う。</p>	週3回 145回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
父親育児講座	<p><目的> 親子の居場所・交流のきっかけづくり。</p> <p><内容> 潮田エリアに関する子育ての情報収集や父親同士の交流・育児の視点を学ぶ。</p>	7、8月 2回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
ボランティア交流会	<p><目的> 地域ケアプラザで活動しているボランティア団体同士の横のつながりづくりや交流。</p> <p><内容> 各団体の活動内容の報告ならびに情報共有。</p>	(利用団体交流会と同時開催) 3月 1回

平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
利用登録団体交流会	<p><目的> 利用登録団体に対する適切な貸館利用方法の周知を行い、団体同士のつながりを深めるとともに活動の活性化を目指す。</p> <p><内容> 貸館利用方法の再確認、会場および貸出ロッカーの整理整頓、団体同士の情報交換等。</p>	(ボランティア交流会と同時開催) 3月 1回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
グリーンカーテン	<p><目的> 環境意識の啓発および地域住民の交流の促進。</p> <p><内容> 潮田地域ケアプラザ前の窓際において、つる性の植物をカーテンのように育て、夏の日光を和らげ、室温の上昇を抑える効果を狙う。苗植えや水やり、育てた野菜の収穫については、当施設の通所介護利用者や地域住民が担い、交流の機会をつくる。</p>	5月～9月 1回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
潮田交流プラザ秋まつり	<p><目的> 潮田交流プラザ3施設（潮田地域ケアプラザ・潮田地区センター・横浜市国際学生会館）のPRと地域住民との交流。</p> <p><内容> 連合町内会やボランティアグループ等による屋台の出店、「鶴見・あいねっと」の普及啓発。</p>	9月 1回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
よこはまシニアボランティアポイント登録研修会	<p><目的> 地域の高齢者等の健康増進、介護予防、社会参加、地域貢献等のボランティア活動を始めるきっかけづくり、新たなボランティアの発掘・育成。</p> <p><内容> 横浜市指定の講師認定研修会を受講し講師資格を取得した地域ケアプラザ職員が、当施設内で研修会を行う。</p>	3月 1回

平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
認知症サポーター養成講座	<p><目的> 認知症について正しい理解をして、認知症の人やその家族のことをあたたかく見守る応援者（サポーター）を養成する。</p> <p><内容> 認知症サポーター養成講座</p>	10月 1回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
潮田CPエリア認知症キャラバン・メイト連絡会	<p><目的> 認知症キャラバン・メイトのフォローアップや、潮田CPエリアでの認知症に関する取り組みを住民とともに進める。</p> <p><内容> 潮田CPエリア内に居住または勤務するキャラバン・メイトを対象に連絡会を開催する（連絡会では、メイトのスキルアップ講座や、潮田CPエリアでの取り組みに関する話し合いを行う）。</p>	11月 1回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
成年後見制度普及啓発講座	<p><目的> 成年後見制度に関する普及啓発</p> <p><内容> 地域住民や介護保険事業者等に向けた成年後見制度に関する講座を開催する。 ※エリア内地区社協からの依頼予定あり。 ※事業者向けには、まず居宅介護支援事業者連絡会での実施を企画する。</p>	3月 1回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
終活講座	<p><目的> 高齢期における権利擁護の普及啓発</p> <p><内容> 鶴見区版エンディングノートを活用し、終活講座を開催する。</p>	7月 1回

平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
高齢者虐待防止・対応 普及啓発研修	<p><目的> 高齢者虐待防止・対応に関する普及啓発</p> <p><内容> 主に潮田CPエリア内の居宅介護支援事業者を対象</p>	3月 1回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
下町茶房	<p><目的> 高齢者、介護者の精神的な負担を軽減し虐待防止に資すること</p> <p><内容> 高齢者、介護者、参加者同士の情報交換等</p>	月1回 12回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
介護者サロンinうしおだ	<p><目的> 介護者の精神的な負担を軽減し虐待防止に資すること</p> <p><内容> 介護者、参加者同士の情報交換等</p>	月1回 12回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
施設協力医と地域のケアマネとの懇談会	<p><目的> 施設協力医と直接懇談の機会を提供することで、潮田地区で活動するケアマネが医療知識をえたり医師に相談しやすい環境を作る</p> <p><内容> 潮田CPエリアに住所のある居宅介護支援事業者と予防プランの委託先事業所を対象に開催案内し、自由な意見交換をする。</p>	年6回 不定期開催

平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
潮田地区居宅介護支援事業者連絡会	<p><目的> 潮田C Pエリアの居宅介護支援事業者同士の交流と資質向上のための研修・意見交換</p> <p><内容> 行政サービス、成年後見について、等 テーマを決めた意見交換や事例検討。</p>	奇数月 年6回開催

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
新任・就労予定ケアマネジャーに対する研修・実習 (区内包括共催)	<p><目的> 基本的なケアマネジメントプロセスや技術、制度活用の理解を実践的に学ぶ機会を提供し、新任ケアマネジャーのスキルアップを図る</p> <p><内容> ケアマネジャーを取り巻く環境や鶴見区のケアマネ支援体制についての紹介、各サービスについて、訪問看護実習、横浜市一般行政サービスの内容に関する研修、その他</p>	7月～10月 6回の連続講座

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
医療機関ソーシャルワーカー(MSW)等との連絡会 (区内包括・つばさねっと共催)	<p><目的> 医療機関毎の機能や特性を知り、地域の医療機関と介護支援専門員との連携強化を図り、相互の協働体制の推進、ならびにケアマネジメントの質を高める</p> <p><内容> 入院時・退院時情報共有ツールについて(講義) グループワーク(私たちは医療介護連携でお互いに何を知り合うべきか?)</p>	11月 1回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
寛政さくら会	<p><目的> 地域ケアプラザより遠方にある地域を拠点として、介護予防・健康づくりに関しての普及啓発講座や体操を行い、講座終了後も参加者が継続的に参加できるように自主化を目指す</p> <p><内容> 介護予防や健康づくりのお話やエンディングノート、ウォーキング等とひざひざワックン体操の実施</p>	月1回 12回

平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
体力測定会	<p><目的> 介護予防の取り組みを体感してもらい、地域における介護予防活動に参画するきっかけづくり</p> <p><内容> 体力測定</p>	11月 1回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
GO!GO! 健康教室 会場：ケアプラザ	<p><目的> 介護予防の基礎知識を学び、その必要性を理解したうえで介護予防活動へ参加するきっかけづくり</p> <p><内容> 認知症予防、口腔機能向上、ロコモ予防、栄養改善</p>	6、7月 1コース：4回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
GO!GO! 健康教室 会場：潮田公園 コミュニティハウス2階研修室	<p><目的> 介護予防の基礎知識を学び、その必要性を理解したうえで介護予防活動へ参加するきっかけづくり</p> <p><内容> 認知症予防、口腔機能向上、ロコモ予防、栄養改善</p>	1、2月 1コース：4回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
地域グループ育成支援	<p><目的> 地域で元気づくりステーション等を実践している住民への支援</p> <p><内容> 健康づくりに必要な知識を学び、今後の活動に意欲が持てるようにする。 特にコグニサイズについて学ぶ</p>	2月 1回

平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
民生委員・児童委員向け研修会	<p><目的> 潮田5地区民生委員・児童委員との関係づくりや必要な情報の提供、地区民児協間の意見交換等を目的とした民生委員・児童委員対象の研修会の開催。</p> <p><内容> 民生委員・児童委員の活動に有用な情報提供及び地区民生委員間の情報交換等の場として開催する。</p>	11月 2回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
地域住民向け出前福祉講座	<p><目的> 地域住民が住み慣れた地域で豊かに暮らしていくための体制づくりや健康づくり・介護予防等に資する福祉講座の開催。</p> <p><内容> 地区社協・自治会町内会・老人クラブ等と共催し、地域住民向けに福祉講座を開催する。 ※講座のテーマは共催団体等と適宜検討する。</p>	年14回実施

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
地域アセスメント	<p><目的> 地域の現状や高齢者等のニーズを把握・分析し、その他地域福祉の推進に必要な取組や活動等の見立てを行う。</p> <p><内容> 地域活動参加や地域ケアプラザ事業実施等を通して、地域情報を集約する。</p>	随時

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
潮田海側ネットワーク5地区社協会長事務局長会議	<p><目的> 地域住民が自分の住み慣れた地域で安心して生活することができる社会を目指し、地域の中での支え合い、連携体制を確保する。</p> <p><内容> 潮田地区の福祉保健活動のネットワークづくり、地区同士の情報交換、福祉保健に関する課題の共有と解決のための取組の検討。</p>	年2回 運営協議会の後